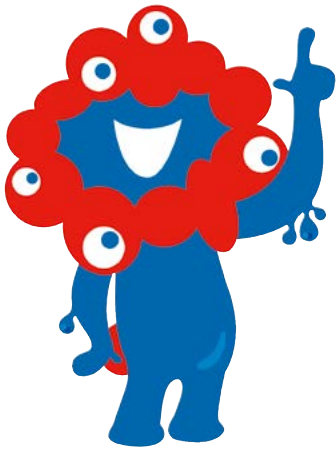


待ったって！ 20年ぶりの開催 くるぞ、万博。

待ったって！ 20年ぶりの開催

くるぞ、万博。



大阪・関西万博公式キャラクターミクミク
提供：(公社) 2025年日本国際博覧会協会

提供：(公社) 2025年日本国際博覧会協会

さあ、いよいよ2025年4月に始まります。

「万博」は単なるエンターテインメントではありません。

世界中からたくさんの人やモノが集まるイベントとして、地球規模のさまざまな課題に取り組むために、世界各地から英知が集まる場です。大阪・関西が世界に誇るライフサイエンス、バイオメディカルの集積が万博のテーマに沿った新たなイノベーションで、さらに発展。そこには未来に向けたビジネスのヒントや出会いがあるかもしれません。

そう思うと、ワクワクしてきませんか？ ぜひ、体感してください。

名 称：2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

テ ー マ：いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ：Saving Lives（いのちを救う）

Empowering Lives（いのちに力を与える）

Connecting Lives（いのちをつなぐ）

コンセプト：People's Living Lab（未来社会の実験場）

会 場：夢洲（ゆめしま）（大阪市此花区）

開 催 期 間：2025年4月13日（日曜日）－10月13日（月曜日）184日間

本特集は公益社団法人2025年日本国際博覧会協会監修のもと同協会ホームページ等より引用しています。

その時代の課題に向き合い、世界と共に解決を目指してきた日本国際博覧会

1970年、アジア初の国際博覧会（万博）開催となった日本万国博覧会（大阪万博）では、戦後の日本の復興と高度経済成長を象徴するイベントとして「人類の進歩と調和」をテーマに掲げて、当時の最新技術がもたらす豊かな明日を示し、来場者に夢と希望など強烈なインパクトを与えました。1990年の国際花と緑の博覧会では「自然と人間との共生」をテーマとして選び、2005年の日本国際博覧会（愛・地球博）では「自然の叡智」をテーマにする等、日本で開催した国際博覧会は常にその時代の課題に向き合い、世界と共に解決を目指してきたといってもいいでしょう。

2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）は、テーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を体現するさまざまな参加形態や事業、会場のデザインを含む会場計画、そして来場者に驚きと未来への展望を与える万博を実現します。この時代だからこそ、「いのち」をテーマに掲げています。世界が一つの「場」に集う機会となる本万博を契機として、世界の多様な価値観が交流し合い、新たなつながりや創造を促進し、世界的な危機を乗り越え、一人一人のいのちを守り、いのちの在り方、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示す万博となることを目指しています。



提供：（公社）2025年日本国際博覧会協会

大阪・関西万博の会場のシンボルで、世界最大級の木造建築物となる「大屋根リング」

「大屋根リング」は、大阪・関西万博会場デザインプロデューサーで建築家の藤本壮介氏により構想された、「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表した会場のシンボルとなる建築物です。日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫接合^{ぬき}に、現代の工法を加えて建築しており、会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用されます。



提供：（公社）2025年日本国際博覧会協会



提供：（公社）2025年日本国際博覧会協会

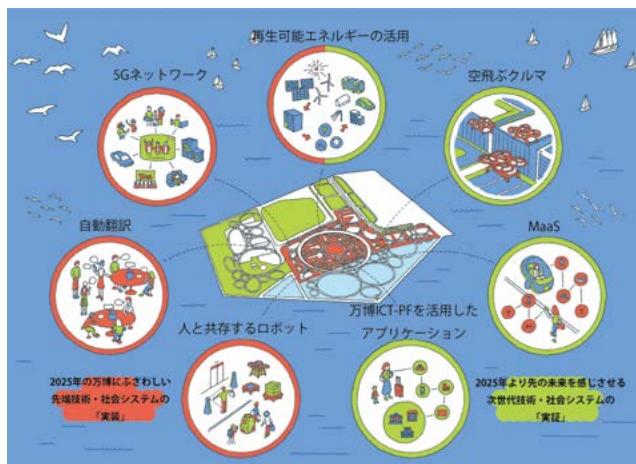


提供：(公社) 2025年日本国際博覧会協会、株式会社大林組 撮影：株式会社伸和

また、1周約2kmがひとつにつながった大屋根リングの屋上からは会場全体をさまざまな場所から見渡すことができ、リングの外に目を向ければ、瀬戸内海の豊かな自然や夕日を浴びた光景、大阪の街並みなど、海と空に囲まれた万博会場の魅力を楽しむことができます。

コロナ禍を乗り越えた先の新時代の国家プロジェクト

カーボンニュートラルやデジタル技術の活用、次世代モビリティなど、2025年以降の未来を感じさせる次世代技術の実証と2025年にふさわしい先端技術と社会システムを実装・実証する「未来社会のショーケース」とすることを目指します。また、バーチャル技術を活用し、万博の魅力と発信力を高める「バーチャル万博」の実現にも挑戦します。リアルとバーチャルが融合した、新しい国際博覧会の姿を示します。



提供：(公社) 2025年日本国際博覧会協会